

雄川堰の原水、来月発売



商品をPRする町職員

「かんらの天水」いかが

間接照明は、災害時に心を落ち着かせる効果があるという。初回は500ミリ入りのボトルを4万本製造予定。備蓄やイベント使用などで町が1万5千本を確保する。2万5千本を道の駅甘楽などで市販する方針。

町が主導し、住民代

表や学生、関連企業など産官学で組織した委員会が投票で商品名とデザインを決めた。高崎商科大と同大短期大の学生が考えた4案の中から選んだ。価格は未定だが、町の担当者は「企業版ふるさと納税による寄付を活用し、購入しやすい価格に設定したい」と説明している。

(細井啓三)

甘楽

甘楽町を流れる日本名水百選「雄川堰」の原水を市販する町主導プロジェクトの商品名が「かんらの天水」に決まった。やわらかい美しい清流をイメージした水彩画風のデザインをラベルに採用。町の

魅力を伝え、災害時の備蓄用にも使える飲料水として11月13日に発売する。ラベルに透明な円が複数デザインされていて、ペットボトル下部から光を当てると間接照明として活用できるようにした。目に優しい

行政情報